モノづくり企業を支援する

山口県産業技術センター理事長
山田（やまだ） 隆裕（たかひろ）氏に聞く

―3月に東日本大震災が発生し、全国の公設研究機関が支援を決めました。山口県産業技術センターはどのような支援を行いましたか。

「4月に開かれた全国の公立鉱工業試験研究機関長協議会で支援内容を決めた。開放機器の利用料金を県内企業と同額にするなど、可能な限りの利便性向上を図っている。また県内企業に対しては放射能に関する問い合わせに対応するため、関係する19機関のリストを作成した。問い合わせ内容に応じて担当の機関を紹介している」

―11年度の業務運営方針に改めて「『Face To Face（フェース・トゥ・フェース）』のコミュニケーション」を掲げました。

「独立法人化前の1年を含め、当センターのトップについて4年目になる。常に『Face To Face』のコミュニケーションをモットーとすると職員はじめ外部にも言ってきた。1人ではものごとは進まない。多くの人との連携があり初めて前へ進むことができる。改めて運営方針に掲げることで、地域企業とのコミュニケーションをさらに推進したい」

―3月に技術戦略を策定し、今後の戦略を打ち出しました。

「今年度の業務運営方針の目標で第1に掲げたのが、成果の各方面への『見える化』。技術戦略は我々がやろうとしている内容を県内企業はじめ、関係機関に見える化したいと考え策定した。県内製造業を取り巻く環境や現状を分析し、国や県の施策も踏まえて四つの技術戦略を定め、技術戦略に基づき13分野の重点技術のロードマップを示した。しっかり発信していきたい」

―製造業を取り巻く環境は厳しさを増しています。技術戦略ではどのような対策を打ち出されたのでしょうか。

「ものづくりの流れは革新的な技術を生み出すイノベーションが主流であることは今後も変わらないと思う。ただアジアなどを見た時、必ずしもイノベーションが求められるとは限らない。地域のニーズに沿い、低コストで生産する技術の方が重要な場合もある。従来よりコストが削減できる機械加工技術など、新たな生産技術の開発が必要になっている。だがこうした生産技術開発は国内ではあまり行われてこなかった。『地域の技術課題の解決推進』ではこうした県内企業の課題解消を支援していくことを目指している」

成果の見える化を推進

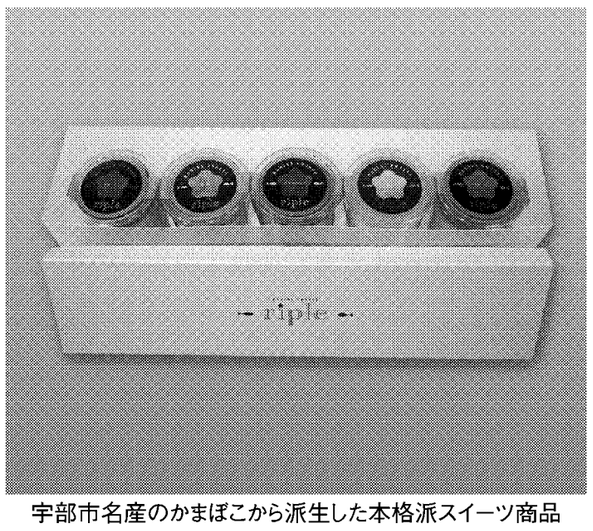
―山口大学、周南地域地場産業振興センターと相次いで連携協定を結びました。その狙いは。

「周南地域地場産業振興センターとの提携は、山口県東部で技術支援をしっかりやっていくのが目的で、サテライト窓口を開設した。こうした窓口の開設は初めてで、全国的にも珍しい取り組みだと思う。周南市など東部地域の企業の方はサテライト窓口で技術相談や開放機器の利用申し込みができる。一方、山口大とはこれまで部分的に連携実績があった。今回は大学全体と包括連携協定を結んだ。具体的な連携事業としては『やまぐちイノベーション創出推進拠点』事業を進める。約8億円を投じて当センターに4、山口大に約20の機器を導入した。共同研究により地域のイノベーションを加速したい」

魚のすり身をスイーツに

宇部蒲鉾（宇部市）は11年1月、魚のすり身を原料にした低カロリー本格派スイーツ商品「マリンスイーツ rip le（リプレ）」を発売した。宇部市では古くからかまぼこが名産品だった。このため魚のすり身を利用した新分野の商品開発に挑戦した。スイーツ開発であるため、地元の製菓業お菓子のピエロ（同）などの協力も得た。110キロカロリー以下の低カロリーながら、魚臭がなく、フワッとした食感の新しいスイーツが完成した。

支援内容は①低カロリー化に向けたカロリー分析と検討②衛生面改善のための微生物検査と検討。

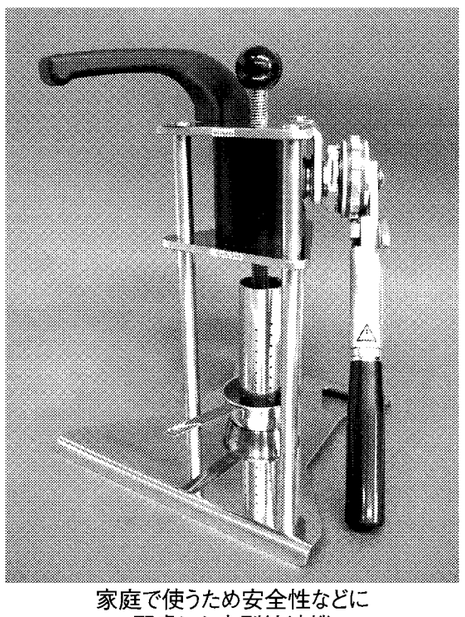


宇部市名産のかまぼこから派生した本格派スイーツ商品

小型搾油機開発を支援

石野製作所（山口市）は家庭用の小型搾油機の製品化を進めている。搾油機はほとんどが業務用で、大きさや重量、操作性、安全性などの点から一般家庭での使用には課題が多かった。そこで一般家庭でも使用できる小型・軽量で安全性に配慮した小型搾油機の開発を支援した。2010年10月に同社と山口県産業技術センターが共同で意匠出願、12年4月に商品化を予定する。

支援内容は①ユニバーサルデザインマトリックスを用いた製品仕様の絞り込み②人体寸法・特性データに基づいた設計支援③搾油実験による設計情報の提供④操作性・安全性向上に関する設計支援。

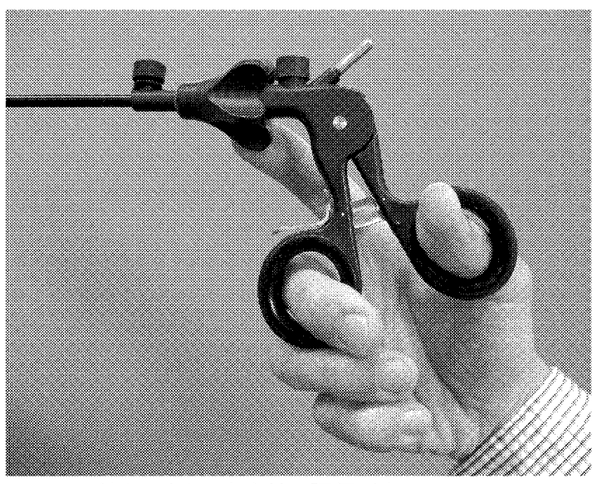


家庭で使うため安全性などに配慮した小型搾油機

内視鏡用品を製品化

平和医療器機（防府市）は11年4月、内視鏡用鉗子（かんし）のハンドルを製品化した。ハンドルはその多くが海外製であり、日本人医師にとっては使いづらいこともあったという。そこで日本人の人体測定データを利用し、使い心地が良く、操作しやすい寸法と形状のハンドルを開発した。官能評価試験ではハンドルの持ちやすさや安定性で従来製品よりも良いとの結果が得られた。

支援内容は①日本人の人体測定データを利用したハンドルの寸法や形状の設計支援②使いやすく簡単な機構の、ラチェットのオン・オフ機能の設計支援③モデルの作成と使いやすさの官能評価試験。



持ちやすさや安全性で評価が高いハンドル

ジェル状ポン酢を開発

ヤマカ醤油（下関市）は、山口県オリジナルのかんきつ類「せとみ」由来の高い香りを特徴とした、ジェル状食酢加工品「かほりのジュレポン」を製品化した。従来のポン酢と異なり、香りが高くジェル状で粘度がある新しい加工食品。ジェル化することでせとみのオイル、果汁、果実酢に由来した高い香りを長期間保持することができる。和洋の料理に使えるほか、ジェル状のため水気の多い野菜によく絡み合うという。山口県食品開発推進協議会食酢専門分科会の委員として開発を支援した。

支援内容は①製品の規格化に向けたエネルギーの分析②製品の特徴を確認するための分析。

ジェル状ポン酢は水気の多い野菜にも良く絡む

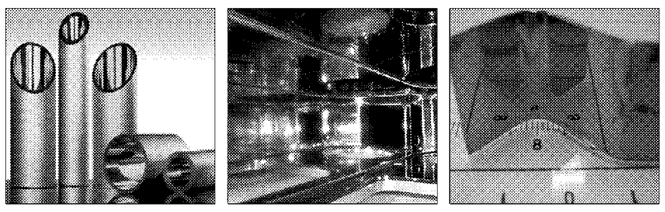
横浜ゴム株式会社 認定工場
冨士高圧フレキシブルホース株式会社
代表取締役会長 藤井 勝
代表取締役社長 藤井 佑三
本社 〒743-0063 山口県光市島田6丁目2番20号
TEL(0833)71-1550㈹ FAX(0833)71-1585
http://www.fujikoatsu.co.jp

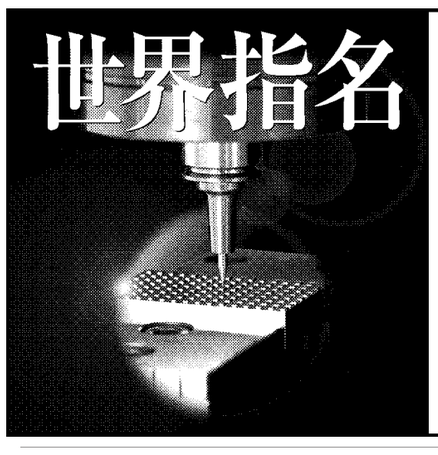
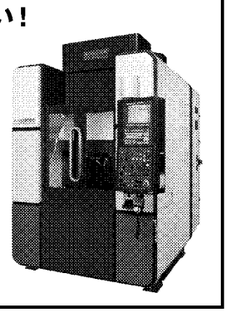
良きパートナーとして
フロンティアに挑戦！
下関鍍金株式会社
取締役社長 岩佐 裕児
〒752-0953 山口県下関市長府港町7-13
TEL.083-245-0171㈹ FAX.083-245-5069
E-mail：smk@bronze.ocn.ne.jp

地球環境保全をサポートする
ポンプテクノロジー その可能性に
Humanity and Originality TAIKO
代表取締役社長
木 村 晃 一
大晃機械工業株式会社
2006年 経済産業省 選定 元気なモノ作り 中小企業300社
本社・工場
〒742-1598 山口県熊毛郡田布施町大字下田布施209-1
TEL(0820)52-3111㈹ FAX(0820)53-2127
http://www.taiko-kk.com

おかげさまで60周年を迎えました
ドラム・コンテナ併用充填機　耐圧防爆型PLC・ファイバーセンサー
TAKARA 技術とアイデアで未来をはかる
http://www.takara-scale.co.jp
株式会社 宝計機製作所
〒742-0021 山口県柳井市柳井3889
TEL：0820-22-0389 FAX：0820-22-1761

高品質なステンレス線・ステンレス異形線
チタン線もご好評いただいています。
永岡鋼業株式会社
http://www.nagaokakogyo.co.jp/
本社/〒743-0021 山口県光市浅江五丁目23番21号
TEL (0833)71-0092 FAX (0833)72-0229

SUS Aℓ Ti Mg Fe Cu
三和産業株式会社
SANWA
環境 ISO14001 認証取得　http://www.sanwa21.co.jp/

金属を磨く
バフ研磨　ヘアライン仕上～#800仕上まで あらゆる仕様に対応
電解研磨　食品、医薬、半導体、その他 各業界に対応
電解複合研磨　設備・機器の再生、性能アップに貢献 バフ目無し、超鏡面化プロジェクト
チタン研磨　微細バリトリ+電解研磨独特の光沢感 ついに実用化への一歩を踏み出す
本社・西沖工場:〒744-0022 山口県下松市末武下西沖680-16
電話:0833-41-3076 FAX:0833-41-3072
E-Mail:honsha@sanwa21.co.jp IP電話:050-5517-0496


世界指名
安定 長時間生産。
液晶パネル バックライトなどのLED金型加工が速い！
精密微細部品・金型製作「高速」マシン。
LEDにYMC430 ver.II
極小精度を高速・ブレなくこなすグローバルマシン
LEDやITに関連する精密金型
精密医療機器部品・金型
コネクタ・レンズ精密金型

YASDA 安田工業株式会社 http://www.yasda.co.jp
〒719-0303 岡山県浅口郡里庄町浜中1160
TEL 0865-64-2511 FAX 0865-64-4535

山口県のモノづくり、
そして地方独立行政法人山口県産業技術センターのご活躍を応援します！
日刊工業新聞社